

平成 30 年度

事業所名 : 麗の郷なごみ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0373200260		
法人名	社会福祉法人 慈孝会		
事業所名	麗の郷なごみ		
所在地	岩手県二戸郡一戸町姉帯字下村24-1		
自己評価作成日	平成30年10月19日	評価結果市町村受理日	平成31年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&Ji_gyosyoCd=0373200260-00&PrEfCd=03&VerSi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○礼節を旨とし、その人の可能性を引き出しながら、その人らしさを大切に、いつも寄り添ったケアを提供します。
 ○排泄の自立支援への取り組みとして、トイレでの排泄を基本とし、機能の維持を目指しています。
 ○当事業所は、特別養護老人ホームと同敷地内にあり、要介護度が重度化になった場合は、アフターフォローができる状況にあります。
 ○夏祭りや、道路の清掃活動の実施、ボランティアの受け入れ、地域住民の避難場所として指定など、地域との関わりを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、農家を中心とした集落の中心部に位置し、河川や森林に囲まれた自然環境に恵まれた地域に立地している。敷地内には、特別養護老人ホームやデイサービスなどが併設され、避難訓練や敬老会などの共同開催や相互の機能を生かし、助言、支援しあうなど、より良い介護サービスを利用者に提供している。また、夏祭りの開催や地域の清掃活動に参加するほか、中、高校生の職場体験、実習の機会を提供するなど、地域との繋がりを大切に、地域に根ざした運営に取り組んでいる。さらに、グループホーム協会の研修会や法人の研修会に参加し知識の習得を奨励し、更に資格取得への法人の支援など、職員の能力向上による介護サービスの充実に力を入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

平成 30 年度

事業所名 : 麗の郷なごみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	○事業所理念は作っていないが、法人理念に基づき、事業所の業務目標を立てている。年度末に反省と次なる目標を立て取り組んでいる。	法人の理念の下、グループホームの業務目標「おもてなしの心、快適な生活支援」を定め、職員会議や朝礼などで確認、共有し利用者一人一人にあったサービスの提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	○地域の婦人会の方々に敷地内の草取りに来ていただいている。 ○夏祭り行事を通じ、地域の方々をつながりを持っている。また、ボランティアによるコンサートを開催している。	地域の住民との交流を大切に、夏祭りの開催や地域の清掃活動やゲートボール大会への参加、中、高校生の職場体験、ピアノ演奏などのボランティアの受け入れのほか、地域の伝統芸能の見学、幼稚園児との交流も行なっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	○運営推進会議を通じて、利用者家族や地域住民に、事業所としての活動内容や介護保険制度などについて説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	○委員は各方面の方に参加していただき、意見等をいただいている。また、行事と会議を絡めて実施したこともある。意見や要望等がある場合にはサービスの向上に活かせるよう努めている。	敬老会、夏祭り、避難訓練に併せて会議を開催し、行事への参加や介護の状況をスライドで報告し委員の理解を得ている。また、地域代表や民生委員などからの意見や提案、消防署員から避難訓練の助言を受けるなど、行事や業務運営に反映させている。	運営推進会議の開催場所や他イベントに併せるなど、冬季間の運営推進会議の開催に向けた検討を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	○運営推進会議には、行政からも委員として入ってもらい連携を図っている。 ○介護保険や生活保護の手続き等、市町村担当者と連絡を密にしている。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加し、各種行政情報の提供を受けているほか、地区の回覧板で地域の情報を得ている。研修会の案内から緊急情報まで、様々な情報を広域組合からのメール等で得ている。要介護認定申請や生活保護関連の届け出等を代行し、また、健康講座には職員を派遣している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○身体拘束等の適正化の為の対策を検討する委員会の開催、指針の整備、研修の実施により、入居者の行動を制限しないように心掛けている。誘導が必要な方には人感センサーを使用している。 ○玄関は、夜間以外は施錠していない。	法人の身体拘束検討部会、グループホームでの委員会や外部研修の報告会を通じ、職員に身体拘束廃止の徹底を図っている。転倒防止用のベッド柵やセンサーの活用は最小限にしている。身体拘束の事例は無く、玄関の施錠も夜間のみとしている。スピーチロックについては、職員間で注意しあい防止に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	○外部での研修に参加した職員による復命研修会を行い、虐待の早期発見や防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	○必要性がある場合には対応できる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○入居前に十分な時間をとり説明した上、契約を取り交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○苦情事、相談事受付ポストを設置し、苦情・意見・要望処理検討組織図を事業所内に掲示している。 ○面会時、通院同行時、運営推進会議等で意見を聞きサービスに活かしている。	運営推進会議への家族代表の参加や居室担当による「おたより」で個々の利用者の様子をお知らせしながら、面会時や受診の際に家族から聴いている。外出や食器洗いの手伝いなどは、利用者の意向を確認の上で行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	○月1回の職員会議において、職員の意見を吸い上げ、運営に反映している。管理者と事業所リーダー職員は、法人主催の経営戦略会議に出席し、その結果を職員会議で報告している。	職員の提案による風呂、トイレ、ナースコールなどの施設・設備を改善・整備に加え、職員からの希望・要望を積極的に吸い上げ、職員の資格取得の希望を叶えるため、研修への参加、取得後の手当の支給などに配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	○交流の場、趣味事をもつことを推奨している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○新人職員への研修を開催している。 ○外部研修への参加、法人内部での勉強会の開催を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○グループホーム協会における研修会等への参加や他グループホームとの交換研修の実施している。また、施設交流会に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	○基本情報を職員へも周知している。 ○入居申し込みの際、聞き取りに時間をとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	○入居申し込みの際、聞き取りに時間をとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	○面談の際、聞き取りによりニーズを把握出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	○食後の片付け、洗濯物たたみ等出来ることは共に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	○通院や行事等家族へも声掛けし同行、参加してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	○地域の行事等に参加や、併設施設を利用の方(知人)へ面会に出掛けて交流を図っている。 ○お盆の墓参での家族との外出、外泊があり、事業所行事には家族に案内を出している。	家族や親戚が面会に来所するほか、通院、墓参、外泊などで毎月家族と外出する利用者もいる。馴染みの理容、美容院に出かけるほか、来所の理容師と新たな馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	○お客様同士の相性を考えた対応や配慮をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	○必要があれば支援出来るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○利用時の面談、その後の生活の中での会話等の中から、希望や意向を把握出来るように努めている。 ○居室内の配置など、自由に過ごせるように検討し、変更している。	利用者のこれまでの経験と知識、個性を大切に、日々生活の中で、共同の生活者として利用者に寄り添い、仕草や行動様式から意向を把握し、入浴(時間の変更や1日2回の入浴など)、帰宅願望等に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○利用時の面談で把握、また、その後の生活の中で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	○日常的に確認し、ケース記録として残している。また、事業所内での職員会議において周知している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	○介護計画は月1回開催する職員会議においてモニタリングを行い、6ヶ月ごとに見直しをしている。 ○家族の希望は、面会時等に確認し、出来るだけケアに反映するように努めている。	職員会議では利用者ごとのカンファレンスとして担当職員の報告を基に話し合いを行なっている。ケアマネによるモニタリングを経て、原案を再度職員に示し、施設長の了解を得たもので家族の同意を得ている。見直しは原則6か月ごととし、医師の指示、看護師の助言も反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	○職員会議、朝礼、ケース記録で情報の共有をし、より良いケアを目指している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	○カラオケや傾聴ボランティア等を受け入れたいと考えている。 ○今後様々な取り組みを行っていききたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	○地域の行事見物や参加、外出する際にはお客様の出身地等も考慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○事業所では協力病院を設定しているが、家族の希望でかかりつけ医の受診を行っている。 ○受診は職員対応や同行が多い。	入居前のかかりつけ医7名(うち協力医5名)、協力医に変更した利用者は1名である。同行は原則家族としている。整形、脳外科などの特別科は二戸の県立病院を受診している。感染症予防接種は中山診療所で行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	○日常的に看護師に報告・相談し助言や指示を受けて支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	○情報共有シートの活用や、面会により入院後も状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	○事業所では看取りを行っていないが、重度化した場合や終末期には、法人が運営する併設の特別養護老人ホームにおいて対応が出来ることを説明し、了承を得ている。 ○必要時には家族と話し合いを行い、住み換えを検討している。	重度化や終末期の対応については、入居時に家族等の同意を得て、法人の特養や病院への転送としている。体調の変化や緊急時には、医師の指示のもと、改めて家族の意向を確認して対応している。特養への移送が難しい介護度の低い利用者の看取り(老衰対応)を行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	○マニュアルを基に研修なども実施しながら対応できるよう体制を整えている。 ○契約時の際、緊急の場合の対応を家族に確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	○年2回防災訓練を実施している。 ○地域消防団との協力体制をとっている。 ○河川の増水時に併設施設(避難場所)へ避難したことがある。	運営推進会議の開催に合わせて、消防署員の立会いのもと、特養、デイサービスと共同で避難訓練を行なった。夜間想定訓練も2名(夜勤)体制で実施した。隣接する特養が地域の避難場所に指定され、災害対策を防災計画に盛り込んでいる。自家発電を備え、食糧の備蓄も行なっている。	地域消防団や地域住民の避難訓練参加に向け、支援要請、協力依頼などの働き掛けを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	○プライバシー保護マニュアルを基に対応している。排泄等の失敗の際にも、人目につかないよう配慮し、礼節を重んじ対応している。	個人情報、ファイルして事務室で保管している。バイタルチェック等の情報は、法人がデータとしてパソコン管理している。面接カードによる記録や広報紙への写真掲載などは、予め家族や利用者の同意を得ている。排泄の失敗、言葉遣いなど利用者の心情を大切に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	○毎日の着替えや入浴時の衣類の準備、嗜好品の選択など入居者に選択してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○一人ひとりに合わせた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	○一人ひとりに合わせた対応をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○食事の準備や後片付け等一緒に行っている。また、手作り会として、お好み焼きやたこ焼き作り等を行っている。 ○季節の行事食や、流しそうめん等を企画している。	惣菜は、敷地内の厨房施設で調理し配膳される。グループホームでは、利用者が食材の皮むきや切りことなどに参加してご飯、おやつを提供している。行事食は、流しそうめん、夏祭りの屋台のほか、敬老会の海鮮チラシ、誕生日の手作りケーキがある。家族や近くの農家から食材やおやつが差し入れされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	○確実な食事と水分が摂取出来るよう一人ひとりの状況を把握し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	○本人の力に応じた口腔ケアに努めている。 ○歯科衛生士による口腔状態の把握、職員に対する指導、助言、研修を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	○一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、日中は全員トイレでの排泄に努めている。 ○食物繊維(サンファイバー)摂取による排泄しやすい環境づくりに取り組んでいる。	利用者ごとに排泄パターンを把握し、誘導、案内している。失敗した場合には、個人の心情を大切に他者に知られないよう、清拭、シャワー浴で対応している。昼間の布パンツ利用者は4名で、見守りを主とした自立支援をしている。夜間のポータブルトイレ利用者は4名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	○一日に1500mlの水分摂取を目指しており、トイレでの排泄に努めている。 ○食物繊維(サンファイバー)使用により自然排便を促している。また、運動量を増やす為に散歩や体操に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	○目安としての入浴時間帯等はあるが、個人の意思を確認したうえで対応している。 ○入浴剤やゆず湯を取り入れている。 ○声掛けの工夫やタイミングを合わせることで定期的に入浴していただいている。	週2回の入浴とし、通院日を除く毎日の午前、午後に入浴している。異性介助にも問題はなく、ゆず湯のほか、世間話、演歌などを歌い、くつろいでいる。入浴を嫌がる方には、時間変更や話題提供で気分転換を促し、対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	○居室・囲炉裏の間・ソファーを活用し、個々に合わせた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	○投薬説明書を確認し、把握に努めている。 ○必要に応じ看護師に確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	○個々に合わせた役割作りを行っている。 ○嗜好品については家族の協力を得ている。 ○色々な気分転換方法を試して張りのある生活を送って頂けるよう工夫していきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	○事業所周围の遊歩道を散歩している。 ○気分転換を図ってもらうよう定期的に外出をしている。 ○家族の協力を得て、自宅や墓参等に出掛けている方もいる。	天気の良い日は、敷地内の遊歩道を散歩している。天候の不順時は、併設施設への渡り廊下を歩いて運動している。菜園での野菜の栽培や日よけのグリーンカーテンのゴーヤ、朝顔を育てている。花見、紅葉狩り、一戸祭り、小鳥谷祭りの見学や道の駅へのドライブを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	○希望がある場合は対応している。 ○物盗られ妄想がある方の場合には対応が難しい場合もあると感じている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	○家族から電話があった場合には取り次いでいる。 ○家族の協力を得て、手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	○季節に応じた装飾を施している。 ○それぞれの空間で、心地よく過ごせるよう、空調等管理をしている。	ロビーが3箇所あり、それぞれにソファーやベンチでくつろぎの場所が作られ、非常に広々とした空間を与えている。中心となるロビーには食事用テーブル、ソファー、ホリコタツの小上がりがあり、それぞれ思い思いの場所でテレビ、カラオケ、ゲーム、塗り絵などを楽しんでいる。天窓からは明るい光が射し込み、季節の作品や花が飾れ、空調も含め快適な環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	○食堂以外に、二か所の別れた空間があり、ソファー・ベンチ・囲炉裏の間・テーブル等思い思いにくつろげるスペースがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	○馴染みの物を持ってきていただけるよう入居前の説明文書に記載しており、また、入居時に説明している。 ○持ち込みの品は少ないが、事業所備え付け品の配置等を工夫している。	備え付けのベッドは思い思いに配置され、備え付けのタンスも各々馴染みの品物が置かれていて居心地のよい場所となっている。パネルヒーター、エアコンでの温度管理がされ適度な射光にて快適な居室となっている。季節感のある装飾も居室に活かされており生活のメリハリを与えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	○「できること」「わかること」と把握し、声掛けや誘導により、ほぼ自立した生活を送ることが出来ている。		